学習者のやる気を引き出す授業実践

――ひらめきを「かたち」に表す楽しさを――

池田絢香

一　はじめに―勤務校の概要・生徒の実態―

一―一　三重県立鳥羽高等学校の概要

勤務校である三重県立鳥羽高等学校は、鳥羽市唯一の高等学校であり、平成二十三年に百周年を迎える伝統ある高校である。平成十七年度から総合学科に学科改編を行った。その理由として、二年連続の定員割れ、地元生徒の地元離れ、地域からの要望などが挙げられる。中途退学者も平成十七年度入学生からは激減していることや、少人数授業であることもあって、授業規律を守らせることができてきているなど、学科改編により、生徒は落ち着いた学校生活を送れるようになってきた。

一―二　三重県立鳥羽高等学校の生徒の実態

まず、生徒の実態として母校に対する愛情、誇りといったものがあまり見られないことが挙げられる。それと関連して、自分に自信がなく、やる気を消失している生徒が多い。このような本校の生徒に対しての国語教育は、基礎力強化のためのわかりやすい授業、国語嫌いを減らすための授業を心がけている。教育において必要なことは、教員の目標と生徒の目標が同じ方向であるということだと考えている。しかし、生徒たちは、「学びたい」という学習欲よりも、「遊びたい」「楽をしたい」という欲望を先行しがちで、教員の思いとは必ずしも一致しない。

このような状況の生徒たちの指導に関して、特に難しいことは自信を持って自分の考えを表現させることである。しかし、生徒のひらめきの力は素晴らしいものがあると、国語の授業をはじめ、生徒と接することで気づいていた。ただ、それを言葉で表現し、評価されることが不安でたまらないのである。低い評価ばかりをされてきた生徒たちが自信を取り戻すため、自由に言語表現する楽しさを分かち合えたらと考え、日々の学習に取り組んでいる。

二　国語科における「ひらめき」と「かたち」

二―一　「ひらめき」と国語教育

まず、私が考える「ひらめく」とは、新しい考えやものの見方を発見することである。具体的に言うと、発問の答えを考え出すこと、わかる体験をすること、あたり前だと考えられていることに疑問を持つことなどである。生徒が受動的に授業を受けるのではなく、能動的に授業に参加するためには、生徒にひらめかせるような指導を行ったり、ひらめかせるような教材や学習を用意することが必要だと考える。「ひらめき」は楽しい、わかることは嬉しい、という感覚を得ることによって、授業に参加しているという実感を持つことができるだろう。国語の時間には「ひらめき」のために工夫できるところが多々あると考える。またひらめかなくては、鑑賞することも創作することもできない。

「わかった！」とひらめいた時の生徒の顔は輝いてる。ひらめいた内容も忘れなければ、その嬉しさも同時に心にとどまるであろう、そんな顔をしている。またそのひらめいた生徒のまわりでは、次は自分がひらめきたい、自分が答えたいという意欲を持って質問を待つ生徒が増える。ひらめこうと頭を働かせるようになる。「ひらめく、言葉にする、認められる、楽しくなる、自信を持つ」この一連の流れを意識し、授業構成を練っていきたい。

もし、ひらめかなかったことで自分の知識の少なさに気づき、もっと知りたい、ひらめくための道具を増やしたいと考える生徒が出てくれば、なによりの成果だと考える。

二―二　ひらめきを「かたち」にすること

ここでいう、ひらめきを「かたち」にするとは、書くことを中心として、文章表現を行うことを主とする。発言することも「かたち」の一つではあるが、授業の中では記憶に残りにくいため、状況によっては板書するなど視覚から認識できる「かたち」にすることが大事だと考える。また、発言は瞬時になされるという性質から、適切さや表現効果をじっくり考えることが難しく、自由な表現であるあまり、発言者自身も聞いている側も、ひらめきの素晴らしさに気づきにくい。言葉をまとめる作業を行うことで表現を考え、言葉を選び、悪い意味での無造作なひらめきに終わらないよさが生まれると考える。書く際も、自由すぎることで適当な表現に満足させることなく、決められた文字数で表現させたり、使用する言葉を制限したりすることで、言葉と向き合わせる工夫も必要である。大切なことは、ひらめく楽しさを「かたち」に表したものから、改めて自分のひらめきの素晴らしさ、自分の持っている能力に気づかせることだと考える。

三　単元の概要と単元設定の理由

単　元　名　「自分の言葉で恋の和歌を作ろう」

対象クラス　総合学科二年生

（一クラス二十六人×三クラス）

実施時期　平成十八年五月～
実施時間　全八時間

三―一　単元設定の理由

「短歌」とはわかりにくいもの、「俳句」と「川柳」の違いがわからないといった学習者にとって、「自分で短歌を作る」ことをいきなり提案しても難しいであろう。したがって、まず生徒が短歌に興味を持ち、身近に感じ取れるような作品の紹介を行う。生徒が興味を抱いているものの一つには「恋愛」がある。その点に着目し、恋愛をテーマにした短歌を取り入れることで生徒の興味関心を短歌に持たせ、自ら表現する意欲が芽生えることを期待した。また、短歌創作を主眼においた、事前指導として、ひらめくための目のつけどころのポイントや、ひらめきを表現する際に効果的な表現方法などを学習する。

三―二　単元の目標

単元の目標として、次の四つを設定した。

1. 「短歌」というジャンルの文学に興味を持ち、自ら創作する意欲を持つことができる。
2. ひらめきをかたちに表すことができる。（ひらめいたことを言葉で表現し、他者と共有することができる。）
3. さまざまなユーモアセンスの感覚を磨き、表現することができる。
4. 人の心をとらえる表現および表現技法を用いて、短歌を創作したり、プロポーズの言葉を考えることができる。

三―三　授業の展開

三―三―一　授業案

次	指導の目標	学習活動	評価の観点
1	・短歌の内容を理解し鑑賞させる。 ・短歌の形式・表現方法・歴史について理解させる。	・プリントにより、短歌の鑑賞を行い、自由に感想を記入する。 ・短歌の形式、歴史について理解させる。	・詠まれている心情が理解できたか。 ・意欲的に感想を書くことができたか。 ・人々の生活に短歌が必要不可欠であった事実を理解できたか。
2	・言葉の持つセンスについて理解させる。 ・作品の意図を正しく理解させる。 ・意欲的に表現させる。 ・情報について考えさせる。	・『注意読本』プリントについて学ぶ。 ・作品の発想を味わう。 ・自分の「注意」を表現する。 ・『プチ哲学』プリントについて考える。	・ユーモアセンスを理解し、注意の表題と内容について理解できたか。 ・意欲的に人とは違った目のつけどころを意識して取り組めたか。 ・意図[注1]が理解できたか。

・文章の構成のルールを理解させる。 ・効果的な表現を考えさせる。 ・意欲的に創作できたか。	・起承転結について知る。 ・プロポーズの言葉を考える。	・文章構成のルールを理解できたか。 ・意欲的に創作できたか。 ・プロポーズ場面を想像し、効果的なプロポーズの表現を考えることができたか。
3		
・短歌を創作させ、鑑賞させる。 ・人の意見や考えを理解させる。人の意見や考えを理解させる。	・「恋する短歌」を創作する。 ・クラスで鑑賞する。	・宿題となっていた短歌を仕上げてきたか。 ・人の意見を聞き、思ったことを伝えられたか。 ・人の意見を取り入れ、適切に推敲できたか。

三―三―二　各次の学習内容の詳細

第一次　導入（一時間）「俵万智の短歌に触れよう。」

生徒が興味・関心を抱きやすいような、わかりやすく、また生徒の状況に近いものを選び、プリントにして配布する。季節感を感じ取り、また恋愛をテーマにした作品を多く取り入れ解説することで、生徒自身の共感を得られるものを選ぶように心がけた。

学習活動としては、一つ一つ読みながら、感想を記入し、また、自分で短歌の作りかえをしていく学習活動を行った。短歌の作りかえでは、俵万智作『チョコレート語訳　みだれ髪』（一九九八・七）を紹介し、参考とさせた。

実際の授業に際しては、思いついたものをそのまま自由に書くことができる雰囲気作りや工夫が必要である。

第二次　（四時間）「目のつけどころの養い方」

短歌を作るにあたり、必要な着眼点の持たせ方を考えた上で、以下の四つの学習からさまざまなものの見方、感じたことの構成の仕方を学ぶ。

①「注意読本プリント」

五味太郎『注意読本』（二〇〇二・九）からいくつか取り上げ、プリントにして配布する。[注2] ユーモアセンスを感じ取り、自分にしか思いつかない「注意」を考えさせる。なかなかひらめかない生徒には、まずはじめにテーマを決めさせ、そこから「注意」することを考えさせる。例えば、「夏休みに注意するべきことは？」など。

【生徒作品】

・たべすぎに注意→デザートが出てくるかもしれないから。
・日常生活に注意→当たり前に慣れて大切なものを見失ってしまうので注意。
・太陽に注意→ちかよるとやけどします。
・お金に注意→全てがお金で買えるわけじゃないから。
・壁に注意→もし、自分の人生の中に大きな壁があっても、あきらめず立ち

向かおうとする気持ちを持ちましょう。
・ライバルに注意→何に対してもライバルはつきものやから常に注意しましょう。ただしライバルは自分を高めることを忘れないよう注意しましょう。
・眠りすぎに注意→よけいに疲れる。
・親の文句に注意→ぐちぐち言っとる親の文句の中にも、親なりの優しさがふくまれているから注意しましょう。
・かさに注意→雨の日かさをさすのもいいが時にはぬれたい時もあるので注意しましょう。
・部活に注意→毎日おこられないようにしても、おこってもらえなくなったら終わりなので注意しましょう。
・勉強に注意→学校の勉強だけしても世の中のことをわかってないとバカにされる。
・カロリー50％OFFに注意→何と比べて50％OFFかわからない。
・視力検査に注意→てきとうに言うとたまに当たる。
・当たり前に注意→あたり前だといって物事をかんたんにかいしゃくしていると、いつかは何かに失敗してしまう。
・テストに注意→最初からいい点をとると、先生に期待される。
・大人の笑顔に注意→あの笑顔はほとんどあいそ笑いなのでだまされないように注意しましょう。
・言葉に注意→自分はその気がないけどあいてにきずつける言葉を言ってしまう。

②「さまざまなものの見方」

佐藤雅彦『プチ哲学』(2000.6) から、「コーヒーカップたち」を資料として生徒に配布する。情報があるということ、また情報がないということから得られる「情報」について考えさせる。

以上の授業後の振り返りを記すと次の通りである。グループで話し合うことを試みたクラスでは、一人のわかった生徒のひらめきに感心するだけに終わった。個々に考えさせたクラスのほうが、発見者は多く見られた。それぞれのカップになりきり、特に、他の二つのカップに対するコメントを考えさせたところ、「わかった」生徒が多かった。他人の気持ちを想像することで得られる、自分にとって得する情報について理解できたのだろうと思われる。

③「起承転結プリント」

『自己表現力の教室』には、起承転結について以下のような説明がある。

「起承転結」というのは、もともとは漢詩の構成法の一種である。「起」で詩をはじめ、「承」はそれを受けつぎ、「転」は一転して別の境地を開き、「結」でまとめる、という構成方法だ。(省略・筆者)そこでは漢詩ばかりではなく、普通の文章(散文)の構成法にも応用されてきた。もちろん落語や漫才でも起承転結は使われるし、4コママンガでも伝統的に使われてきた。

荒木昌子他著(二〇〇〇・四)『自己表現力の教室ー大学で教える「話し方」「書き方」』(情報センター出版局)一六八頁)

以上を参考に、わかりやすくするために4コママンガを用いて説明を入れたプリントを配布した。また、『水の東西』(山崎正和著)で語られる「序破急」と「花火」の例を挙げて説明を行った。

④「プロポーズの言葉を考えてみよう!」

「もしプロポーズするなら、されるなら、どんな状況でどんな言葉

で……」をテーマに、一生に1回かもしれない思い出に残る状況や言葉をプロデュースさせてみる。目標は第三次での「恋をする気持ちを短歌で表してみよう」につなげるため、恋人の心をとらえるプロポーズの言葉を考える。告白でもよかったが、あえて先のことである結婚をテーマにしたほうが、恥ずかしさを払拭できるだろうと考えた。

【生徒作品】

・ぬいぐるみかなにかに「結婚しよう」メッセージと指輪を持たせて送る。
・普段どおりに2人で会話して静かになった時、その人の弱点を言って悪い所も含めて…ってプロポーズする。
・一生私のマッサージしつづけて
・ずっと、ごはん作ってあげるー笑
・船のってさ。
・お前のこと好きやから、ずっとそばにおってー結婚しよ。これから2人で楽しい家庭を築いていこっ。俺がお前を幸せにするから。
・近頃、君のことしか考えられない。まるで歯痛のように君が消えない。僕と結婚してください。
・「これからいろんな思い出を作っていこ！」
・彼女の家に婚姻届を持って行き、宅急便みたいに「ハンコとサイン下さい」と言って指輪を渡す。
・君の瞳の中で暮らさないか？
・俺と同じ墓に入ってくれ！
・君を幸せにする自信はない。
でも、僕が幸せになる自信はある。

第三次　短歌創作と鑑賞「恋をする気持ちを短歌で表してみよう！」

「あなたを想う恋の歌」を福井市が募集しており、各自で一句を応募することとした。「恋」というテーマに対して、恥らう生徒も見えたが、その気持ちよりも自分の思いを表現したいという気持ちが大きかったようであり、今までにない活気あふれる時間となった。授業展開は、まず、各自で創作したものをクラスでまとめ、一覧にし、無記名で配布した。そして、一つ一つを鑑賞していき、よりよく直していく作業を取った。その具体的な二例を以下に挙げる。

《事例1》

短歌1　これからはひとりで歩むと決めたのにあなたのことを忘れられない

短歌2　これからはひとりで歩むと決めたのにペアリングさえ外せられない

生徒Aの短歌1に対して、他の生徒が「最後の二句を、何かモノで表現できたらいいんじゃないかな、忘れられずにまだ持っているものとか」と評価した。そこで、生徒Aは、短歌2のように変化させることができた。

《事例2》

短歌3　放課後に夕暮れ照らす屋上へ二人で写る思い出写真

短歌4　放課後に夕焼け空がスクリーン僕ら二人の幸せシネマ

生徒Bの短歌3には、「なんだか屋上で写真を撮ったよ、ということだけに終わっている気がする。夕暮れの空を何かに例えたらいいと思う」とのコメントがあり、生徒Bは、短歌4のように作り変えることができた。それぞれ他人のものの見方に触れることで、より

よい作品へと作り変えることとなった。

無記名で行うという安心感からか、また、興味深い「恋」がテーマであったからか、すべての生徒が意欲的に創作できた。毎回、授業に向かうのが楽しみだった。どんな作品が出来上がるのか、どんな視点で恋のワンシーンを切り取ってくるのか、新しい出会いに胸が躍った。すべての作品に、感動し、また表現できる能力の高さに驚いた。他の生徒に「この歌上手やな。」などと評価されることで、自信をつけて進んでもう一首作ってみるという生徒も現れた。普段の無気力な状態とはまるで違った顔つきをしていた。取り組む前は、生徒の反応がわからず、不安を抱えての開始ではあったが、今回の取り組みで、生徒の新しい視点、可能性に触れることができたと思う。

出来上がった作品は全て応募し、また各自一句を選び、クラス内投票を行った。クラスメイトの作品をみた感想は、「みんな上手い！！」と感動する生徒が多数いた。以下にいくつか作品をあげたい。どれもこれも、生徒の心の動きが見え、彼らなりの表現の工夫が見えるものである。

【生徒作品】

・どれくらいあなたと距離があるのだろう君とあたしのメジャーが欲しい
・好きだよと数学ノートに書き込んだお願いヤツを起こしてピタゴラス
・冗談があたしのこころを踊らせるキミの本音を辞書で探そう
・若いねと友の恋バナ聞くけれどそんなあたしも十八歳
・反比例キミへの思いと体重が恋はサプリだ美人（きれい）になろう
・ふくらめとオーブンの前でいのってもいつも失敗君への想い
・「君が好き」この一言が言えないんだよ勇気の魔法あったらいいな
・夏祭りはぐれないよう手を握りドキドキしながらひたすら歩く
・すれ違うその時だけのチャンスだから勇気を出しておはようと言う
・毎日が一緒だったら気づかない欠けた酸素は君が補う
・１０センチ触れ合う吐息重なる目忘れためがねほっとしたとき
・君と会う何気ないしぐさ君想うもしかしたらがあればいいのに
・遠くなる君に贈った「さようなら」桜舞う頃スタートライン
・「大好きだ！」背筋伸ばして顔上げて携帯片手に宣戦布告
・「おはよう」と君がにっこり微笑んだ今日の朝刊トップニュース
・告白は一度やったらもどせない書道と同じ一発勝負
・不思議だね偶然見てた出席簿ふいに見つかるあなたの名前
・夏祭り好きなあの子と二人きり花火満開ほんま幸せ

四　ま　と　め

「恋する短歌を作ろう」との試みを考えた主な理由は次の三点であった。

1．生徒の和歌への関心が高いこと

まず、四月に文章読解を行ったのが「さくらさくらさくら」（新編現代文　東京書籍）という俵万智の文章であった。その際、本文中に出てきた数首の和歌への関心が高かった。特に、最後で筆者が紹介している失恋とさくらが散ることを重ねて詠んだ和歌への反応には手応えを感じた。

2．恋愛を扱った作品への関心が高いこと

また、以前扱った古典教材でも、恋愛が絡んだ話になると、多くの生徒の興味をひきつけられることがわかった。例えば『伊勢物語』の「筒井筒」で男が他の女のもとへ行くという場面ではそれまでよそ事をしていた生徒まで「浮気はあかんよなっ」と息巻く場面もあった。また女は、歌の上手さと男を想う心などによって、男の心を取り戻したとの説明にも「言葉は大事やよな、メールとかめっちゃ考えるもん」「えー、どんな言葉がいいんやろ。確かにここで泣きわめいても冷めるよなぁ」などと、自分の恋愛とつなげて考えることができ、現代ならどんなメールに男は心を奪われるか、などと白熱した討論になった。その後の意見に「古典も楽しいなー」という感想が多く見られた。

3．言葉の持つ意味や大切さに気づき、適切な表現、効果　的な表現を考えることができること

三十一文字、それも五・七・五・七・七で区切られた言葉で言いたいことを綴ろうとすると、有意義に言葉を使おうと心がける必要があり、言葉を選ばなければならない。同じような表現の繰り返しを避け、文字数に合い、かつ心情にも合う最適な表現を探す必要がある。普段何気なく使用している言葉について、最も適した言葉を選択する学習活動を行うことで、言葉の持つ意味や大切さに気づき、深く考えて言葉と向き合うことができると考える。また、生徒たちは自分たちの方言に誇りを持っており、離島から通う生徒にはそれが顕著に見られる。ひらめきをかたちに表す際に、さまざまな表現方法を用いることで、表現の幅が広がることから、方言の有効的な活用が期待できるのではないかと考えた。しかし、方言のよさを認めると同時に、方言であると気づかせなければならない。なぜならば、今後、生徒たちが就職活動をすることを考えると、方言は万人の理解が得られるものではないため、作文等では用いてはならないという指導が、必要だからである。

以上が、本単元の主な理由である。ただ、恋愛によって生徒に国語に対する興味関心を持たせようとするのは、全てにおいて可能なことではなく、またそればかりを授業として行っていくのには問題もあることは理解した上での今回の実践である。国語嫌い、文字離れした生徒の気持ちを、「国語の時間も案外楽しいかもしれない」「ちょっと聞いてみようかな」といったものにするために、また、自分の言葉を表現したい、ひらめきをみんなに伝えてみようという前向きな方向に持っていくための導入材として効果があるのではないかと考える。

本実践では恋愛の歌を作るという目標を掲げながらも、第二次ではあえて恋愛以外を扱った教材を用いた。それはなかなか恋愛について考えにくい生徒に対し、参加しやすい状況を作り、違った着眼点からの捉え方を探らせる試みであった。同時に、恋愛以外の面白さについて考えさせるためでもあった。今後の国語の授業が、「あの恋愛のやつは楽しかったけど、今はつまらん」とならないように、以後の授業での発展も可能であるように幅広いものとした。このことで、生徒にとまどいを抱かせるのではと懸念したが、いろいろなことを考えるきっかけ作りになったようで、混乱している様子は見

られなかった。

本校での勤務は五年目になるが、依然として「どのように教えるか」以前の「どのように生徒に関心を持たせるか」というところで苦悩し続けている。あくまで「学習」という枠をはみ出さず、個々の学力を伸ばすことや社会に出てから役立つ知識や常識を伝えることの大切さを日々感じてはいるが、まずは授業に参加できること、めんどくさい気持ちを払拭することが目標である。

今回の実践で、最初の目的である、生徒の興味関心をひきつける点においてはクリアしたようである。次の目標は、学力をつけること、楽しいだけではない国語の授業をどのように行っていくか、生徒に社会に出てから不都合なく生きていくための知識をつける大切さをどのようにわからせるかを課題に取り組んでいきたいと考えている。常に生徒の気持ちを考え、注意深く観察し、授業への意見を自由に教員に告げることができる雰囲気作りを考えていきたい。

五　おわりに

今から四年前、教員になって初めての一学期が終わる頃、無気力で学習意欲が低い生徒を前に、私はどのように授業を行うべきかと困惑していた。そんな時、提出されたノートを点検していると、一人の生徒のコメントが目についた。「先生が早口だったし、知らんことばっかでよーわからんだ。でも、先生がいっしょうけんめいなのは伝わってきた。」それはクラスでも手がかかり、漢字の読み書きも苦手であるやんちゃな生徒のノートだった。一学期を終えただけでやる気を紛失してしまっていた私に、光を与えてくれた一文であった。気持ちは伝わるんだ。国語を好きになってもらいたい。いろんなことを感じ、考え、知ってもらいたいという熱意を持って取り組めば、思いは絶対届くんだという自信を取り戻した。それから四年が経とうとしている。わかりやすく、生徒にとって楽しく学べる時間ではないかもしれない。説明も下手、板書も下手、学力を伸ばすことができたと胸をはることはできない。ただ、私の授業の中心には生徒がいる。生徒の心がある。お互いのベクトルを重ね合わせる努力を続けていきたいと考えている。

注1　ここで言う「意図」とは、情報がないことが情報であることである。

注2　ここでの「注意」とは、『注意読本』で用いられている「注意」とする。具体的には一般的な注意とは異なる、生きていくうえで気付いていたほうがより豊かに生活が出来る「注意」である。

六　参考引用文献

荒木昌子・筒井洋一・向後千春（二〇〇〇・四）『自己表現力の教室―大学で教える「話し方」「書き方」』（情報　センター出版局）

五味太郎（二〇〇二・九）『注意読本』（ブロンズ新社）

佐藤雅彦（二〇〇〇・六）『プチ哲学』（中公文庫）

俵万智（一九八七・五）『サラダ記念日』（河出書房）

俵万智（一九九一・四）『かぜの手のひら』（河出書房）

俵万智（一九九五・九）『恋する伊勢物語』（筑摩書房）

俵万智（一九九七・五）『チョコレート革命』（河出書房）
俵万智（一九九八・七）『チョコレート語訳みだれ髪』（河出書房）

付記

本稿は、第四十七回広島大学教育学部国語教育学会での発表を基に書き改めたものです。江端義夫先生をはじめ、御助言くださった方々に記して感謝申し上げます。

（三重県立鳥羽高等学校）